聖学院大学人文学部　実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科　　：20単位
日本文化学科　　：20単位
子ども教育学科　：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
1	現代英文法	1	4	村岡　有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学の知識を身に付けることをテーマに学ぶ。特に、英文法について学び、中学校・高等学校でいかに教えるかを念頭におきながら、各々の文法事項について検討する。併せて、文法事項の特性に応じて、話し言葉と書き言葉による言語形式の違いと英語の音声の仕組みや、英語の歴史的変遷についても関連付け、英文法の理解を深める。 英語の音声の仕組みと、英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の特性を概観したのちに、それらの特性と関連付けながら、中学校及び高等学校で扱う文法事項について、項目ごとに扱う。各文法項目に関しては、中学校や高等学校での指導を念頭に置きながら、文法学習の重要事項の理論と演習の方法論を検討する。音声の仕組みを教授することを意識した声に出して読む実践や、国際共通語であることを踏まえたコミュニケーション英文法についても扱う。	○		
2	英語科教育法I	2	2	村岡　有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基礎的な考え方や指導方法を理解し、「外国語（英語）科の授業づくり」ができる指導力を身につけることを目標とする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識及び学習評価の基礎、情報機器及び教材の活用に関する知識と方法を実践しながら身に付ける。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領に照らしながら、外国語（英語）科の授業について事例研究を行う。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践につなげるために、実際の授業の在り方についても考察する。あわせて、英語科教員として必要とされる英語力を身に付け、学習指導案を作成した上で模擬授業を行う中で、授業内での指導に必要な教室英語を使いこなせる力を培う。	○		
3	英語科教育法III	2	2	村岡　有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」に続いて学び、模擬授業を通して授業実践や学習評価についての考え方や指導方法を身につけ、「外国語（英語）科の授業づくり」ができる指導力を磨くことを目標とする。情報機器及び教材の活用についても、実践しながら身に付ける。 「英語科教育法Ⅰ」で学んだ学習指導要領や第二言語習得に関する知識及び文法指導、「英語科教育法Ⅱ」で学んだ各技能別の指導法、領域統合型の指導法、ICT活用法などの学習成果を踏まえて、教室における実際の授業の組み立て方や指導法について授業実践を通して学ぶ。また、中学校や高等学校の授業実践のビデオや文献を参考にしながら、あるべき英語の授業について考える。教育実習及び現場に立つための準備として、文部科学省検定教科書をもとに学習指導案を作成し、グループ及び個人による模擬授業を取り入れ、指導力の基礎を養う。	○		
4	異文化理解	1	4	小川　隆夫	埼玉県小学校教諭	小学校教諭として多くの外国人ALTと働いた経験と自らの会社で外国人社員を雇用していた経験をもとに学生が将来多くの世界中の人々と関りながら活躍できるようになるため、異文化理解及び異文化コミュニケーションの観点から理論的・実践的知識を教授する。 異文化を理解し多様な文化的背景を持った人々と交流する体験を通して、異文化交流を行うことで文化の多様性に対する自らの視点が拓かれて行くことを実感し、異文化交流の意義を理解する。英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な事項を知り、世界の文化の多様性を踏まえた異文化コミュニケーションの現状と課題を認識し、英語学習が異文化理解に極めて有効であることを体感する。 様々な異文化交流及び摩擦の事例に学び、文化が人々の生活や関わりに及ぼす影響を考察しながら、英語を含む外国語やその背景にある文化の多様性を知る。また、様々な異文化適応の方法論に学び、多様な文化的背景をもった人同士が分かり合う可能性と方法を知る。さらに、異文化コミュニケーションの現状及び課題について学ぶと共に、異文化理解の英語学習への応用方法を考察する。	○		

聖学院大学人文学部　実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科　　：20単位
日本文化学科　　：20単位
子ども教育学科　：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
5	児童英語教育(理論)	1	2	東　仁美	英語教室講師	小学校現場での授業経験を元に小学校外国語活動の現状について紹介し、また研修講師としての経験から、小学校英語教育に関する理論的・実践的知識を教授する。 児童英語教育の概要と共に、英語運用能力についても学ぶ。子どもに英語を教えるという観点から「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。 児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また小学校外国語活動の目的と意義、異文化理解教育、第二言語習得についても理解を深める。授業は講義のほか、体験的に学んでいくグループワークを実施する。児童英語教育科目の入門的な講座である。	○		
6	児童英語教育(カリキュラム・デザイン)	2	2	東　仁美	英語教室講師	小学校現場での指導経験を元に外国語活動の現状について紹介し、また研修講師の経験から理論的・実践的な知識を教授する。 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教材、並びに小・中学校を通した英語教育の在り方について理解する。また、第二言語習得理論に沿った学習指導案作成について理解し、指導に生かすことができる。 この授業では、公立小学校での中学年外国語活動の基礎知識を身につけ、それぞれの学年に相応しい授業内容を考える。そしてカリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。教材研究を行い、様々な活動例を基に、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。学期の最後には考えた指導案を発表する。	○		
7	児童英語教育(インターンシップⅠ)	2	2	東　仁美	英語教室講師	外部指導者としての外国語活動の授業をした経験を元に観察実習の指導をする。 小学校英語指導者資格の必修科目である。公立小学校で外国語活動の授業を見学し、小学校英語教育への理解を深める。 小学校英語教育の観察実習をする。公立小学校での授業見学のほかに、実習の事前指導がある。授業観察後、毎回実習レポートを提出する。	○		
8	児童英語教育(インターンシップⅡ)	2	2	東　仁美	英語教室講師	外部指導者としての小学校外国語活動での授業実践の経験を元に授業実習の指導をする。 児童英語教育科目の集大成として、英語のみで45分の授業を指導する力をつけていく。 児童英語教育の授業実習をする。公立小学校での外国語活動の実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週２～３回の事前指導がある。事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。	○		
9	史料読解	1	2	阿部　能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。 歴史の研究は、自分の勝手な想像や解釈ではなく、「史料」をもとに行わなければならない。そして「史料」の扱い方や調べ方にも、一定のルールが存在する。この授業では、特に中・近世の「史料」に関する基礎知識や用語について学び、読解力を養うことを目標とする。 まず、活字化された中・近世の古文書や古記録をテキストとして、その読解を行う。あわせてその史料が成立した歴史的背景について学ぶ。 次に、いわゆる「くずし字」解読のための基礎知識を習得することを目指す。そのうえで、中・近世の古文書の実物について、その写真やコピーをテキストとして読解を行う。		○	
10	日本史の研究(中世史特論)	2	2	阿部　能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。 日本の中世・近世は武士が政権を担う、まさに「武士の時代」であった。しかし、一口に「武士」といっても、その実態は中世と近世とでは大きく異なる。また、中世の武士についても、時代や地域によって、その存在形態は実に多様である。このような中世を代表する存在である武士についての知見を得ることにより、日本の歴史や文化へのより深い理解につなげていきたい。 近年の武士研究の目覚ましい進展により、従来の武士のイメージは大きく変容している。講義ではこのような研究成果を紹介するとともに、武士の誕生や発展の背景にあるものについて解説していく。		○	

聖学院大学人文学部　実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科　　：20単位
日本文化学科　　：20単位
子ども教育学科　：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
11	歴史と文化	2	4	阿部　能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。 近代以前の日本社会において、政治権力と寺社を中心とする宗教勢力とは、密接不可分の関係にあった。また、仏教美術を中心とする芸術作品も、多くがそのような関係の中から制作・利用されていった。この講義では前近代の日本における政治・宗教・美術の関係性に着目し、そこからどのようなものが生み出され、また、それが社会にいかなる影響をおよぼしたのかについて考えていきたい。 特に日本中世における仏教諸宗や僧侶たちの動向を手がかりに、その時々の権力者や民衆が宗教に何を求めていたのか、そして、仏像をはじめとする優れた仏教美術作品が制作された背景にどのような願いが込められていたのかについて解説していく。		○	
12	歴史と社会	2	4	阿部　能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。 日本の中世・近世社会においては、多くの歴史的な事実から、さまざまな伝承が生み出された。そのうちのいくつかは現代にまで伝わり、史実をしのぐ影響を社会に及ぼし続けている。この講義では著名な古典作品を題材として、伝承が社会に与える影響について知ることを目標とする。 『平家物語』や『太平記』、『忠臣蔵』といった古典作品を題材として、史実との比較から伝承が生み出される背景や形成過程、その変遷についてみていく。また、後世の社会や文化に与えた影響についても考察する。		○	
13	図書館情報学概論	2	2	塩﨑　亮	国立国会図書館	国立国会図書館および国立情報学研究所において図書館・情報サービス業務全般に従事した経験をもとに、図書館・情報サービスの現場で実際に必要となる知識・スキルを具体的に教示する。 図書館の概要を理解するとともに、記録された情報を探し、整理した上で人に伝える力を育む。司書資格取得を目指す受講者にとっては、司書資格取得科目の導入として、今後学ぶ諸科目に関する基礎知識をもえる。 文部科学省令で定められた科目内容に即し、図書館の社会的意義、機能、法制度、歴史・現状・今後の課題、公立図書館以外の各種図書館の概要、出版流通業界との関係等について取り上げ、社会における図書館の全体像を把握できる内容とする。		○	
14	教えるための現代文Ａ	2	2	熊谷 芳郎	埼玉県県立高等学校国語科教諭	高等学校の教員として勤務した経験をもとに教育の現状について言及し、現実を踏まえた国語教育の観点から理論的・実践的な知識を教授する。 教員として国語の指導を行うための基盤を築くことを念頭におき、現代日本のすぐれた評論、小説に学びながら、文章読解力、文章表現力を確かなものにすると共に、現代文の指導に加え、作問に生かせる力を身につける。 現代日本語の文章から評論、小説のすぐれた作品をとり上げ、それに基づく作問例に学ぶことで、問いを通した文脈把握、内容把握、展開把握の実際を理解する。単に文章に触れるだけでなく、その文章を用いた作問例に臨む演習を通して、学習者・指導者双方の視点からの教材研究を行う。		○	
15	キリスト教文化論Ａ	3	2	柳田　洋夫	日本基督教団伝道師・牧師	プロテスタント・キリスト教の教会の牧師として、いくつかの教会で職務に携わった経験を生かして、キリスト教をはじめとする宗教一般について、基礎的知識また観点を伝える。 世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについての概略的知見を深めることを目標とする。 宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。		○	
16	キリスト教文化論Ｂ	3	2	柳田　洋夫	日本基督教団伝道師・牧師	プロテスタント・キリスト教の教会の牧師として、いくつかの教会で職務に携わった経験を生かして、キリスト教をはじめとする宗教一般について、基礎的知識また観点を伝える。 代表的キリスト者に即して、キリスト教の日本文化・社会に対する影響や貢献について理解と考察を深めることを目標とする。 これまでのキリスト教をめぐる学びをふまえつつ、日本の文化・社会の発展に貢献したキリスト者たちについて学ぶ。		○	

聖学院大学人文学部　実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科　　：20単位
日本文化学科　　：20単位
子ども教育学科　：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
17	保育内容総論	1	2	相川 徳孝	私立幼稚園教諭	幼稚園において実際に教育課程や指導計画を立て保育を実践していった経験を活かし、どのように保育の内容を構築し、日々の保育を展開していったかを具体的に伝えていく。また遊びを通しての学びについては実践例を取り上げ説明をしていく。 同様に保育士としての経験を活かし、0歳児から2歳児までの保育内容について個々の発達を踏まえて保育を展開していった実践例を取り上げて3歳未満児の保育について説明をしていく。 幼児期の特性を踏まえた教育とはどのようなものかを理解し、遊びを通した総合的な学びの在り方と主体的な遊びを展開するための環境を構成する力を身に付ける。また保育を展開するための指導計画の作成方法と具体的な指導の在り方について学ぶ。子どもの姿や保育の評価、情報共有および記録、保育分析・保育改善に情報機器を活用した映像資料が有益であることを理解し、互いに撮影して活用する手法を学ぶ。 幼児教育がどのような考えのもとで展開されているのかを理論と具体的な保育の場面から学び、各自が実践してみることを通して身に付けていく。保育とは何か、また遊びを通した幼児の育ちを理解するために映像資料を活用するとともに、情報モラルを踏まえて模擬保育を映像で記録し振り返り等に生かす。			○
18	生活	1	2	石橋　桂子	埼玉県小学校教諭	小学校生活科においての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編」の基本的理念を理解させると共に、小学校現場の実態を踏まえ、授業構想の仕方や教材開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ばせ、理論的知識と実践的態度の育成を目指す。 生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解する。とともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について学び、生活科の存在意義（今日的役割）を正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。（他者理解の方法の習得　言葉に関する素養の習得） 小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験等をとおして学ぶ。さらに「幼児期の教育」との連携やスタートカリキュラムの重要性についても考察する。			○
19	生活科教育法	2	2	石橋　桂子	埼玉県小学校教諭	小学校生活科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編」においての指導内容を踏まえた学習指導案の作成や模擬授業体験等の場をつくる。さらにそれらについてアドバイスしたりディスカッションさせたりすることで、実践的・実感的に学ぶことを目指す。 小学校学習指導要領における生活科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「生活科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、生活科における子どもの学び、教師の役割、子どもの思いや願いを生かした授業等について、自分なりの考察ができるようにする。 小学校学習指導要領に照らしながら、生活科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に教材研究の手順を理解するとともに、自ら生活科の教材づくりに取り組む。また、子どもの意識の流れに沿った学習指導案の作成や、模擬授業をとおして授業の進め方を実践的に学ぶ。			○
20	算数	1	2	杉山　晶子	青森県小学校教諭	小学校算数科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編」の基本的理念を理解させると共に、小学校現場の実態を踏まえ、主体的で対話的な深い学びの授業改善の視点に立った授業構想の仕方や教材開発等について、演習や実践事例等を通して学ばせることで、算数科における理論的知識や学習指導案・授業構想についての理解を目指す。 算数科指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導（主体的で対話的な深い学びの授業構築）に生かせるようにする。 小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの発達段階や概念形成を踏まえて理解できるようにする。 教材研究を通して、教材のねらいや授業の進め方等を研究し、学校現場に立ったときに自信をもって実践できるように自らの力量を高める。			○

聖学院大学人文学部　実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科　　：20単位
日本文化学科　　：20単位
子ども教育学科　：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
21	算数科教育法	2	2	杉山　晶子	青森県小学校教諭	小学校算数科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編」においての指導内容を踏まえた学習指導案の作成や模擬授業体験、ICT活用等の場をつくる。さらにそれらについてアドバイスしたりディスカッションさせたりすることで、実践的・実感的に学ぶことを目指す。 算数科における基礎的基本的内容を基に、小学校現場においての主体的で対話的な深い学びの授業実践のあり方について、指導案作成や模擬授業を通して理解する。その際には、交流や省察を通し、改善点の発見や再認識をするようにし、子ども視点に立ったより効果的な授業実践を目指すようにする。 問題解決を通して算数数学を使って考える楽しさや算数数学のよさを自ら感得し、子どもが学ぶ意欲を高める授業実践のあり方を身に付けるようにする。さら指導案作成を通して算数科のねらいを明確に捉えると共に、主体的で対話的な深い学びの授業改善を目指した模擬授業を行う。同時に、効果的なＩＣＴの活用方法や教材開発についても研究し、演習や交流等を通して改善していくことを目指す。			○
22	国語	1	2	田中　正代	東京都小学校教諭	小学校教師として勤務した経験をもとに小学校教育の実態について言及し、小学校教師の観点から理論的・実践的知識を教授する。 小学校「国語科」の構造や目標，内容，指導の在り方など，小学校における国語科教育の基礎的・基本的な知識及び技能について習得することを目的とする。 小学校学習指導要領における「国語科」の全体構造や指導内容を捉える。各領域等における目標・教科内容に対応する知識を得るとともに、言語生活の基本である国語について関心を広げ、国語についての基礎的な理解を深める。			○
23	初等国語科教育法	2	2	田中　正代	東京都小学校教諭	小学校教師として勤務した経験をもとに小学校教育の実態について言及し、小学校教師の観点から理論的・実践的知識を教授する。 小学校学習指導要領における国語科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「国語科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、自らの書写能力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることも目標とする。 小学校学習指導要領に照らしながら、国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等をとおして授業の進め方を実践的に学ぶ。			○
24	教育方法論	2	2	田中　正代	東京都小学校教諭	小学校教師として勤めた経験をもとに小学校教育の実態について言及し、小学校教師の観点から理論的・実践的知識を教授する。 これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するためには、学級経営や授業スキル及び学校現場での課題を理解するとともに、それらの指導内容を実践できなければならない。また、 ICTを活用した教育の有用性を理解し、実践できなければならない。教育内容としての不易な部分だけではなく変化の激しい今日的課題にも対応できる資質を身に付けるようにする。 本講義では、教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業を行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、プログラミング学習や教育メディアの演習を通して、情報活用能力を身につけるとともに、協働的な態度を養い、主体的・対話的で深い学びの実践を図るようにする。			○

聖学院大学人文学部　実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科　　：20単位
日本文化学科　　：20単位
子ども教育学科　：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
25	理科	1	2	仲井　勝巳	大阪府小学校教諭	大阪府公立小学校の教諭時に、市の小中学校研究協力員理科部会代表を務め、理科教育の実践研究を行った。市教育委員会主催・夏休み理科自由研究の審査員や理科指導法に関する研修講師を務めた。それらの観点から、理論的・実践的知識を教授する。 本授業では、新学習指導要領の改訂のポイントとなる資質・能力の3つの柱に焦点を当てる。３つの柱（①何を知っているか、何ができるか【知識及び技能】②知っていること・できることをどう使うか【思考力・判断力・表現力等】③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか【学びに向かう力・人間性等】）を育む小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。 これまで、学習指導要領各学年の目標に記載されていた「問題解決の能力」が各学年の内容に記載されたことから、受講生が指導者として、内容と問題解決の能力をより意識して、児童の理科に対する、見方・考え方を働かせる力を育て、興味・関心や問題解決の能力を高めていく。 また、観察・実験の技能の習得と向上を図るため、各学年の「物質とエネルギー」「生命・地球」の単元の中から特に、技能を身に付ける必要のある内容を体験する。さらに、実験器具の基本操作の習得、安全な理科指導を身に付け、事故防止を図る。 理科において、基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が自然に親しみ、目的意識を持った観察・実験を行う。その際に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることができるような活動を重視する。 また、これまで培った、一人一人の理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことを通して、問題解決の力を身に付けながら、将来指導者になった時に、応用することができる教材観や児童観を身に付けることができるようにする。理科のA,B区分の特徴を把握し、理科に対する興味・関心、学習意欲を高め、その魅力を指導者として児童に提示していくことができるような、学ぶことの意義や有用性を実現できるようにする。さらに、理科として現代社会における環境問題にも触れ、理科を通して、人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。			○
26	理科教育法	2	2	仲井　勝巳	大阪府小学校教諭	大阪府公立小学校の教諭時に、市の小中学校研究協力員理科部会代表を務め、理科教育の実践研究を行った。市教育委員会主催・夏休み理科自由研究の審査員や理科指導法に関する研修講師を務めた。それらの観点から、理論的・実践的知識を教授する。 小学校学習指導要領の目標と内容、系統性、Ａ・Ｂ区分の特徴の理解を深めた上で、好奇心や興味を持って理科の面白さが実感できる授業はどうあるべきか、実践事例を基にして観察・実験等の演習を行いながら、情報機器及び教材の効果的な活用をふまえたアクティブ・ラーニング型授業を体得する。 理科指導法では、理科の教材研究を深めて適切な授業設計を立案し、児童の科学的な見方や考え方をいかに伸張できるかが問われる。授業を実施する前には授業過程や学習指導の仕方を設計するための豊富な経験・構想力が必要である。本授業では、児童に理科学習の成立を確実に保障するために、事例演習・実験を通して学習指導案（模擬授業）を作成する。模擬授業を実施し、その効果の検証を通して理科指導力を磨く。理科が好きになりその面白さをいきいきと児童に伝えられる豊かな専門的力量をもち、実践的な指導力を備えた質の高い教員の養成を目標とする。学生が学校現場に立ったとき、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）という学習方法を活用して学校教育において重視すべき“三つの柱”を児童が習得できるようにすることを重視する。			○